

ウォーター・サポート・ボンド

何故水なのか

水は、経済的・社会的発展において、非常に重要な資源です。エネルギーや産業、農業などのさまざまな経済分野にわたり、共通して必要とされています。

水資源の良好な管理は、環境に配慮した全ての成長につながるのです。世界の水の課題は気候変動に、より複雑になってきています。

- 2050年までに90億の人口に食糧を供給するためには、農業においてより効率的な水の使い方が必要になります。2050年には世界で今より50%多い水が必要とされると予測されています。

- 貧困国や新興経済国では、次の25年間でエネルギー需要は2倍以上になるでしょう。1年間に生み出される全エネルギーのうち、18%が世界中の水力発電所によるものです。しかし、アフリカでは生産できる全エネルギーのうち、7%しか生産されてない状況です。

- 現状のままでは2025年までに、世界の3分の2近い国々が水不足に陥り、24億人が深刻な水不足に直面すると推測されています。



韓国における「環境を考慮した成長」への高まる関心

韓国政府は、「Low Carbon, Green Growth(低炭素で、環境に配慮した成長)」という戦略を国家ビジョンに採用し、2009年に「グリーンODA計画」を発表しました。



この計画のもとで、2013年に韓国のODA全体のうち20%をグリーンODAとし、2020年までに30%まで増加させるとしています。



<グリーン気候基金の設立式>

最近では、途上国の経済成長を支えることで気候変動に対応する動きを支援する国連基金である、グリーン気候基金(GCF)が、2013年12月、韓国仁川に設立されました。

このグリーン気候基金は、韓国がグローバル気候および環境のためにさらに活躍していくにおいて重要な土台となっていきます。

韓国輸出入銀行の環境関連事業

韓国輸出入銀行は原子力、水処理及び再生可能なエネルギーなどの事業に取り組んでいる韓国企業に環境関連融資を通じた支援を行います。

韓国輸出入銀行のグリーン・パイオニア・プログラム(「GPP」)

- 2009年1月:韓国輸出入銀行は、水関連事業を含む環境関連事業への財政支援を目的として、「**グリーン金融部**」を設立しました。
- 2010年1月: 気候変動に対して懸念が膨らみ、またエネルギー資源が減少する中、韓国政府は、「**低炭素グリーン成長基本法**」に基づく、持続可能な成長を促進するフレームワークを導入しました。
- 2010年: 政府のイニシアティブに従って、韓国輸出入銀行は大幅に環境関連融資を増やし、**グリーン・パイオニア・プログラム(「GPP」)**を採用しました。これは韓国による海外の環境関連市場への事業拡大を支援すると同時に、韓国の環境関連産業の基礎を強化するものです。
- 韓国輸出入銀行はGPPを通して2015年までに40兆ウォン(約400億円)を環境関連融資に提供する計画です。



水関連事業の事例

グリーン・パイオニア・プログラムの主な柱として、韓国輸出入銀行が水関連事業へ融資しているセクターは水力発電、水道設備、淡水化などがあります。

現在進行中の水関連事業(一部分)

- ・ムハック下水処理プロジェクト(パーレーン)
 - ムハックに地域における下水処理場及び下水道の建設、運搬システムに対する支援します。
- ・パトリンド水力発電プロジェクト(パキスタン)
 - ムザファラバードのクンハール川における147MW水力発電所の建設、資金調達と運営に取り組みます。
- ・ピーティワムプ水力発電所プロジェクト(インドネシア)
 - 147MW水力発電所の建設、資金調達と運営に取り組みます。そして北インドネシア・スマトラ州における150kVの送電線や送電設備が完備されたら、PT PLN(インドネシア州所有の電力会社)へ運びます。

水関連施設の開発及び改良への高まる需要により、2013年5月に韓国輸出入銀行はウォーター・サポート・ボンドを発行し、水関連事業の支援を続けています。

<水関連事業への融資額の増加>

